

## 大仙・太田南小 郷土野菜のキャラ考案

## 拙者、「横沢ねぎ丸」でござる



大仙市の太田南小学校(赤上育江校長、81人)児童が地域の郷土野菜「横沢曲がりねぎ」のマスケットキャラクターを考案した。名前は「横沢ねぎ丸」。児童は毎年、地域の農家らと協力し校舎敷地の畑で横沢曲がりネギを栽培して

いる。今後、ねぎ丸を使ったポスターやシール、しおりなどを作り、横沢曲がりネギをPRしていく。

4年生の佐藤和市さんが、「ネギのキャラクターを作ったら、学校や地域がもっと明るくなるはず」と発案。4年生クラスの16人で、総合的な学習の時間に意見を出し合い、人工知能(AI)も活用しながら案を固めていった。

7日には、4年生が全校児童の前でねぎ丸を紹介した。横沢曲がりネギと同様に髪の毛を大きく曲げ、江戸時代から栽培されているという歴史の長さを侍の格好で反映させた。鍋料理に合う特徴も表現するため、鍋のふたを頭にのせるといった工夫も凝らした。

児童は代わる代わるマイクを握り、「曲がりネギの農家さんが減る中で、多くの人にネギを知ってもらいたい」などと話した。

ネギ丸のグッズは児童に配布するほか、校内や地域の直売所で展示する予定。(針金友理子)



「横沢ねぎ丸」のシール(手前)としおり

# 取れたてネギでなべっこを楽しむ



輪になって鍋を囲む太田南小の児童

大仙市の太田南小学校で、児童が栽培した地域の郷土野菜「横沢曲がりネギ」を使ったなべっこが行われた。全校児童が縦割りグループに分かれ、豚汁やいものこ汁を作り昼食として味わった。

ネギは4年生が2年越しで育て、4日に収穫。なべっこは例年、屋外で行っているが、クマ対策のため、今年は体育館にレジャーシートを敷いて7日に実施した。

グループごとに輪になって鍋を囲んだ。調理は5、6年生が率先して引き受け、1～4年生はカセットこんろの火加減を見たり、具材を入れたりして補助し煮えるのを待った。完成すると、栽培のサポートをした市東部新規就農者研修施設の講師らと一緒に「いただきます」と手を合わせた。

4年生の三浦大琥さんと草薙慶さんはそれぞれ「ネギは甘くてとろっとしていておいしかった」「地域の人も手伝ってくれて、楽しく育てたネギがおいしく育って良かった」と喜んでいた。

(令和7年11月16日(日)秋田魁新聞から一部抜粋)